

千葉韋駄天アスリート風神、7年ぶりの優勝!! 2時間6分11秒! ~~第23回千葉・青葉の森リレーマソン~~

前日の雨模様の天気から開催が危ぶまれた「第23回千葉・青葉の森・リレーマソン」当日は雲間から薄日が覗く絶好のマソン日和となりましたが、前日に行ったリレーゾーン用の路面に表示したテープが全部剥がれてしまい一同啞然!

一方、会場には参加する選手が続々と集まる中、役員総出で大会本部を含め会場設営に汗を流すことに!

午前7時半過ぎ、どうやら会場の体裁が整い受付開始、一部のチームが中々現れずやきもきしましたが開会式が始まる午前9時前には出場を申し出ていたチーム全ての受付が完了!



選手宣誓をするNorthPark 1・2のみなさん

開会式でのNorth Park1・2 (レースナンバー 105/106) 所属小学生ランナー総出での選手宣誓には大人のランナーへの暖かいメッセージが満載されていて思わず会場全体から大きな拍手が揚げられました。

午前9時半、今回はランナーとしても走る小高晶子スターター (船橋陸競) の号砲で一斉にスタート! スタートから勢いよく飛び出していくランナー達。

今年も優勝を本命視されている「JREAST



ランナーズA (R/N 1)」がトップを走る展開と思いきや、若干遅れを取る展開に。なんとここ数年JREASTの後塵を拝している「千葉韋駄天アスリート風神 (R/N 2)」が終始トップを譲らず、一時2分近くの差をつけ、終盤JREASTの猛追を振り切り2時間6分11秒で第18回大会 (2018年) 以来7年ぶりの優勝を勝ち取りました。惜しくも2位に甘んじたJREASTは55秒差の2時間7分06秒でフィニッシュ。

フィニッシュ後のインタビュー「中々抜けなかったJREASTさんに感謝します。チーム記録の更新が出来ました」(風神監督)



笑顔はじけるナンバー1

「今まで他チームの背中を見られないレースが続いたが今回は違いました。風神さんに感謝。来年はリベンジを図ります」(JREAST・最終

ランナー) お互いに感謝を述べる姿からも。



3位に入った「韋駄天アスリーツ雷神」とは10分以上の差があったことから、当分の間この2チームによるデッドヒートが続くことは間違いなく、他チームを寄せ付けぬ群を抜いた実力の

チームである証ともいえます。

レースはその後も順調に進行。

制限時間を超えたチームや、周回をミスしたチームもありましたが13:30過ぎに全てのチームが完走を果たし、その上救護班の出番がない「無事故」という内容で今年のリレーマラソンも無事終了することが出来ました。

最後に今年もボランティアでご協力いただいた千葉経済学園の高校生・大学生ボランティアの若い力に感謝! 感謝!

(文責・園川)



また、来年お会いしましょう